

## 独白

落ちるものがない  
何もかも浮き、漂うばかり  
沈むものがない  
満たされているからではない

時間が意味を持つのは  
ただ「死」という宿命においてのみ  
それさえ忘れ去ることが可能である  
時間は、限りなく無いに等しい

日が昇り  
日が沈む  
それは単なるリズムと解される  
連綿と継続することであると

昨日  
今日  
現在  
明日  
明後日

存在とは見えることである、と  
そのような定義が信じられている  
あるいは  
全てはア・プリオリである、と  
その向こうはない、と

浮遊し  
漂う  
そのような生しかない  
疑いもなく  
そのように信じられている

私の前には  
鏡に映る自分の映像がある  
これは私を投影したものか  
それとも

**他の何者か、なのか**

**(2005.11.20)**